

検証保育・検証授業3 稲嶺あゆみ教諭（糸満市立糸満南幼稚園）

去る1月28日(水)、稲嶺あゆみ教諭による幼稚園教育の検証保育では、表現する楽しさを味わうための環境構成の工夫と教師の一人一人に寄り添った援助により、幼児が主体的に遊びを選択し、楽しそうに、又時には集中してついたり、かいたり、それを遊びの中に取り入れたりしている姿が印象的でした。

指導講師の村吉和美先生（那覇市立古蔵幼稚園主幹）からは、「幼児全員が遊びに取り組んでいることが幼児の実態に沿った保育を展開していることの表れであり、それを支えている先生方が目立つことなく、子どもの主体性が保証されており、それを全職員体制で取り組んでいることが素晴らしい。これは、①幼児の主体的な活動②遊びを通しての指導③一人一人の発達の特性に応じるという3つの柱を意識した協働体制が行われているからだと思う。

また、どの子にも年賀状が届くような細やかな仕掛けや、それを年明けの保育の中でつなぎ、生活体験と関連させながら、タイミング良く遊びの中に盛り込み、子どもの興味関心に応じた環境構成がなされており、その中で子ども達が充分についたり、かいたりすることを楽しんでいることがみてとれる。しかし、それにとどまらず、次の深まりへの手立てが必要だと感じた。

さらに、子どもの視線の高さにあるシーサーや琉球ガラスの木漏れ日を感じる素晴らしい設計に基づく園環境と糸満らしい学級の名前などを生かし、その思いを伝えることで糸満南幼稚園児としてのアイデンティティを育てる保育の展開をしていただきたい。ムーチーも紙ではなく、本物のゲットウを活用したり、絵馬の本来の意味を知らせたり、本物を意識した体験をたくさん盛り込んでほしい。ただし、先生の意図が強くなることなく、子どもの思考を手助けできる援助をしていただきたい。」との指導助言がありました。

検証保育には、糸満市内の3園の先生方と糸満市教育委員会から上原順子先生がお見えになり、熱心に参観なされました。

【研究テーマ】

幼児が表現する楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫
～ついたり、かいたりする造形遊びを通して～

【検証保育の視点】

- 1 幼児がついたり、かいたりする造形遊びを通して、表現する楽しさを味わっていたか。
- 2 幼児が主体的に遊ぶ中で、表現する楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫ができていたか。



写真1 検証保育の様子



写真2 ついたり、かいたり



写真3 検証保育研究会の様子

検証保育を終えて（稲嶺あゆみ）

検証保育本時を迎え不安と緊張でいっぱいでしたが、いろいろな人の視点から教えていただくという気持ちで保育に向かいました。子ども達は昨日からの続きであったお弁当屋さんを楽しんだり、お寿司屋さんを始める子の姿も見られました。自分達で考えながら遊びに取り組んでいたのは私は、様子を見守りながら必要な時に素材を出す等の援助を心がけました。

1、2学期の園生活を振り返って考えてみると、子ども達がとても成長し、落ち着いて遊びにのめり込む姿が見られ、嬉しく思いました。検証保育研究会では指導助言の中で、小学校学習指導要領図画工作の目標と幼稚園教育要領領域「表現」とのかかわりや今日の保育をうけての気づきなど、様々な視点からの学びがありました。また、所長をはじめ研究所の先生方や研究員のお話からも勉強になることがたくさんありました、ありがとうございました。玉城園長先生や山田教頭先生、糸満南幼稚園職員の皆さん、多くの方々への感謝の気持ちを大切に、今日の反省や学びをきちんと整理・記録して研究のまとめに向かいたいと思います。